



現場改善の進め方

今回は倉庫のシェアリングサービスについて紹介した。今回はEC物流への新規参入、拡大を目指す物流企業が、配送業務獲得に向けて利用できるサービスを紹介することも難しい。

注目のマッチングサービス

こうした状況下で勧めたいのが、CBクラウドの「ピックアップゴー」、ラクスルの「ハコベル」などに代表される

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う巣ごもり需要の増加で、ECの利用が拡大し、荷量が増加している。だが、物流企業がEC事業に参入しても、すぐに業務を獲得することは容易でない。感染終息の見通しが立たない中、業務拡大に



クニエ

ロジステイクスグループ

大室 翔史

マネージャー

EC業務の獲得に向けて

シェアリングサービスを利用する上で確認すべき3つのポイント

自社対応可能な貨物	保有する車両特性や物流施設にもよるが、対応できる貨物の幅が広いほどマッチングする可能性は高くなる
求められている配送品質	日時指定配送や荷扱いなどの配送品質の担保を目的とした配送先の受取人による評価機能がある。サービスにより評価される品質が異なる
責任の所在	誤配や事故発生時には誰が補償するのかがあらかじめ把握する

貨物の配送といった消費者向けを中心としつつ、例えば

ば、メーカーの工場から建築現場への空調機の輸送など、内容は多岐にわたる。

3つのポイント 確認が重要

マッチングの条件次第では、EC物流に参入したばかりの企業も案件獲得に利用できるだろう。既に事業を手掛けている企業は、新規業務の獲得に加えて、既存車両の稼働率、積載率の向上につなげることが可能だ。

荷主にもメリットがある。1点目は、自社で対応可能な貨物を明確にしておくこと。保有する車両の特性、物流施設で、対応できる貨物の幅が広いほど

る。一例が緊急時の車両手配にかかるリードタイムの短縮だ。従来は緊急配送時、複数の物流企業に連絡して車両を確保する必要があった。だが、例えばピックアップゴーは案件の9割が15分以内

にマッチングしている。料金には距離や個数などに応じて課金される。3点目は、責任の所在の金、内容、取扱個数などの確認だ。誤配、事故発生時誰が補償するのかを前もって把握する。類似の食品配送のマッチングサービスでは、訴訟も起きている。ECの利用拡大で宅配物の増加する半面、ドライバー不足は解消されない。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や在宅勤務の増加、置き配の利用拡大により、再配達は一

定の改善が見られるが、依然として、配送効率悪化の要因になっており、中小物流企業は限界がある。これは日時指定配送や荷扱いといった品質を担保する目的がある。サービスにより、求められる品質が異なることから注意が必要となるだろう。今後も新サービスの登場が予想でき、

幅広い情報が集約され、業務内容とコストが適正化されていくはずだ。ユーザーの要望を基に、マッチング以外の機能が追加され、利便性の向上も期待される。必ずしも利用しなくてもいい。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や在宅勤務の増加、置き配の利用拡大により、再配達は一

3点目は、責任の所在の金、内容、取扱個数などの確認だ。誤配、事故発生時誰が補償するのかを前もって把握する。類似の食品配送のマッチングサービスでは、訴訟も起きている。ECの利用拡大で宅配物の増加する半面、ドライバー不足は解消されない。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や在宅勤務の増加、置き配の利用拡大により、再配達は一

必ずしも利用しなくてもいい。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や在宅勤務の増加、置き配の利用拡大により、再配達は一

おおむる・しょうじい2010年米ナショナル大経営者修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルタントファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。